

JA自己改革ニュース



所得増大編
No.01
2020.9.10

愛媛県

JAおちいまばり 里芋部会

生産

販売

コスト

里芋の生産・販売のトータル コーディネートで、**所得33%アップ**



JAおちいまばり（今治市(立花地区を除く)及び越智郡上島町）では、**生産拡大**に向けた種々の助成や栽培管理・農作業の省力化支援を行うとともに、**販売拡大**に向けた「愛媛さといも広域選果場」による集荷ロットの拡大や長期安定出荷、さらには、**コスト低減**の取り組みなどの生産から販売までのトータルコーディネートで支援を行っています。

その結果、里芋生産において、1戸当たりの所得は、2019年度は111.6万円となり、2018年度に比べ27.1万円、**33.0%の増加を実現**しました。

【JAの具体的取り組みと成果】

生産拡大に向けては、各種のJA助成事業の実施や「東予地区さといも技術協議会」による広域指導体制の確立を通じた栽培管理支援を実施しました。

また、面積拡大と並行して農作業の省力化をすすめるとともに、JA出資型法人(株)ファーム咲創での定植作業受託(2019年度4.8ha)や人材派遣会社との労働者派遣契約による支援体制を構築しました。

その結果、作付面積は部会発足時(2012年度)の2.4haから、2018年度は16.4ha、2019年度は21.1haへと拡大しました。

販売拡大に向けては、全農えひめが設立した「愛媛さといも広域選果場」の稼働による集荷ロットの拡大や長期安定出荷などにより、有利販売に取り組んだほか、県を挙げた積極的な消費宣伝活動を行いました。

その結果、部会の里芋販売量は2018年度の327トンから2019年度には609トンへと増加し、販売高も6,597万円から1億2,475万円へと増加しました。

コスト低減に向けては、大型収穫機導入などのほか、部会員増加(2018年度44名⇒2019年度57名)によるスケールメリットの追求なども行いました。

これらのトータルコーディネートの取り組みにより、2018年度から2019年度にかけて、里芋生産において、**1戸当たり33.0%の所得増大を実現**しました。

里芋の作付面積



里芋の販売高



里芋生産における1戸当たり
平均農業所得*

※平均販売高から平均農業経費を引いた手取り額



(愛媛さといも広域選果場とおちいまばり産さといも)

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行/ JA全中(一般社団法人 全国農業協同組合中央会)



JAグループ

耕そう、大地と地域の未来。